

Greeting from WASEDA

部長挨拶

早稲田大学バドミントン部部长 関 一誠



第56回早慶戦の開催おめでとうございます。

本年は北京オリンピックの年、世界中がさまざまな競技スポーツの話題で盛り上がりました。いまだに、興奮冷めやらぬ思いの方も多いことかと存じます。

日本で、オリンピックという毎回きまって衆目を集める競技は、柔道、水泳、体操などですが、今回、おおいに話題を集めた競技に、バドミントンがあります。このことは我々バドミントンに関わる者として、たいへんうれしく思います。中国ではバドミントンと卓球の人気は絶大なものがありますが、日本でのバドミントンの周知度はあまりはかばかしいものではありません。そんななかで、オリンピックの舞台は、

日本の女子ダブルスプレーヤーの人気に乗じてマスコミに大きく取り上げられ、初めて競技としてのバドミントンを見たという人が少なくありません。そのため、バドミントンについての話題があちらこちらで聞こえるようになりました。このスポーツへの理解度もおおしく深まったように感じます。このことは、選手の頑張りがあったことに間違いありませんが、それに関わる関係者の成果であるとも考えられます。そこには、早慶両校の多くの諸先輩が日本のバドミントン草創期から貢献してきた事実があります。伝統ある歴史の中で早慶両校の関係者が国内外で担ってきた功績は計り知れないものがあるからです。

次回の、ロンドン大会には、是非とも、早慶両校の選手の中から、オリンピック選手が輩出することを願っております。

その基盤は、なんと言っても早慶バドミントン定期戦にあります。

現在、日吉記念館が改修工事直前と聞いております。うらやましく思う反面、慶応の現役諸君は今後の練習に苦慮されることと思います。早稲田にも同様の障害は起こり得ますが、そういったもろもろの悪条件を克服し、乗り越えて技術向上に邁進し頑張ってください。両校の更なる活躍を期待します。

会長挨拶

稲門バドミントンクラブ会長 橋本太郎



私は、本年より栗田前会長の後任として就任いたしました昭和43年卒の橋本太郎と申します。よろしくお願ひ申し上げます。

振り返ってみますと、私が1年生の時の第11回早慶戦〈男子の部〉は、早稲田大学の10連敗の中で迎えました。当時の慶應義塾大学は、長谷川さん、本山さん、轟さん、山本さんはじめ錚々たるメンバーを擁し、早稲田大学が勝つのはとても無理であろうというのが戦前の予想でした。しかしながら

結果は1,2年生で7勝したこともあって、予想を覆して8対7で我々の初勝利となりました。勝利の瞬間は、現役もOBも大感激したこと、涙を流していた人もいたことが、今でも昨日のこのように思い出されます。

その後の早慶戦は、お蔭様でどちらかと言うと早稲田大学有利で推移してきたように思います。世の中に大学はあまたあれども、両校にとって早慶戦は歴史的に見ても特別重要な試合である思います。本日の定期戦では両校選手の奮起によって、手に汗握る熱戦が展開されることを期待いたします。

試合が終わりましたら、ラグビーではありませんがノーサイド、いつもながらの懇親ができることを楽しみにしております。

Greeting from KEIO

部長挨拶

慶應義塾体育会バドミントン部部长 渋谷誉一郎



第56回早慶バドミントン定期戦が11月2日に慶應大学日吉記念館において開催されます。お慶び申し上げます、また平素より早慶バドミントン部のためにご指導ご支援を戴いております諸先輩をはじめ、監督、コーチ等々のスタッフ各位に心より御礼申し上げます。

慶應義塾は今年創立100周年を迎えました。それに伴い、さまざま記念行事が開催されていますが、バドミントン部にとっては何よりも日吉記念館の改築が気になるところです。現在の記念館は1958年に義塾創立100周年を記念して建てられました。50年を経た2008年、すなわち本年が150周年になります。これまで入学式や卒業式等の会場として、また屋内競技の殿堂として、義塾を象徴する役割を担ってきましたが、その老朽化は如何ともしがたく、改築の運びとなりました。計画では2010年竣工予定とのことです。可能であれば、落成記念の趣向を凝らして、早慶戦の日程が調整できればと願っています。

昨年は早稲田における創立125周年の意義について関部長と栗田会長からご披露いただき、たいへん興味深くうかがいました。慶應の100周年記念祝典とは言えば、記念館は当時としては相当大きな規模を誇っていましたが、それでも塾生・塾員・関係者等々が一堂に会するだけのスペースはなく、祝典は3日に渡って挙行されました。そのほかにも1年を通して記念講演会、芸能祭、福沢諭吉展、観劇会といったイベントが賑々しく行われたと伝えられています。因みに今回の式典は2008年11月8日に日吉キャンパス陸上競技場において執り行われ、三田、湘南藤沢、大阪会場には映像による特設の中継会場が設置されると聞いております。

最後になりましたが、本年度バドミントン部には新入部員11名（男子8名、女子3名）が加わり、留学生を含め総勢38名となりました。今後とも早稲田との交流を得難い機会と認め、たがいに研鑽し合う中から、より一層の飛躍を期待しています。

会長挨拶

三田バドミントンクラブ会長 小杉良雄



熱い北京オリンピックでの女子バドミントンの活躍もとうに過ぎ、我々の第56回早慶バドミントン定期戦が昨年に引き続き日吉の丘で開かれます。おめでとうございます。今年は「独立と協生」を掲げた塾創立150年（11月8日、日吉にて式典）の特別な年に当たります。また当バドミントン部にとっては、創部66年となります。慶應としてはこの記念すべき年にあたり（早稲田何するものぞ）と挑戦者として気力を漲らせ、最後まで全員でシッカリと戦って欲しいものです。一勝でも多く勝利し、敗れるにせよ各人1ゲームは必ず取ることで本大会を是非盛り上げて頂きたい—北神奈川予選決勝（対東海大相模）から88年振りの夏甲子園ベスト8進出までに見せた塾高野球部のあの粘り強い、前向きな姿勢に倣って。

現在の塾現役部員はインターハイの上位者は居ないもののバドミントン経験者はさらに増え、新たに13名を加え36名の大世帯になっています。レギュラー・サブプレイヤーの力の差も接近しているようで、彼等の数の力と一体感にはOB一同大変嬉しく頼もしく思っています。

それを示すまと無い大舞台がこの早慶の総力戦です。塾側は勿論のこと、全ての出場者皆さんの大健闘—勝っても感動、負けても感動—を期待しています。

そしてこの伝統ある早慶戦を現役・OBが一体となって継承し、今後一層華の有る、ホットでユニークなものになっていくことを心より願って止みません—その為にも慶應が今一つ強くなる必要がありますかね。では昼間は興奮気味に若人の熱いプレーを、夕刻は冷えたビールでの懇親会を楽しみにしています。

今後両校OB、OG.の皆さん、さらに部員のご家族・友人の皆さんが年々多勢参加されんことを心待ちにしております。

今年も早慶両校の現役、OBが一同に会して競い合う早慶戦がやってきました。この伝統ある定期戦も今年で第56回を迎えることになりました。これもひとえに諸先輩方の努力と熱意の賜物と感謝申し上げます。

また、今年も監督として戦えることに感謝するとともに大変光栄であり嬉しく思います。

今年は秋のシーズンに入り、男子が関東学生秋季リーグ戦において4位と健闘しました。また、インカレにおいては上田・嘉村組が優勝、木村・松浦組3位、上田が2位とチームが若返り、大健闘の結果を残してくれました。

女子においても春季は4位に甘んじてしまいましたが秋季は優勝し、インカレにおいては関谷が優勝、永野3位と結果を残し、この成績はチーム全体がレベルアップしている証拠と思っています。男女とも、今後、より良い結果を残せるよう努力していきたいとお思います。期待してください。

さて、今年の定期戦ですが、全員で一丸となり慶応に臨み、是非勝利をものにしたいと思います。しかし、いつも独特の雰囲気の中で行われる早慶戦は過去いくつもの名勝負が実力を超越したところで勝敗がついて来ました。選手諸君には今年も気合い負けせず、日頃の練習の成果を充分に発揮し早稲田らしく悔いのないプレイを見せてほしいと思います。特に4年生には学生最後の定期戦として、後輩達の見本となるよう全力をつくして必ず勝利してもらいたい。そして、良き思い出をつくってください。

最後に、今年も慶応の現役、OB諸氏と共により良い試合を展開し、より両校の友好が深まることを望みます。

WASEDA VS KEIO

しゅつ・ウイニングウ〜

がんばれ早稲田!



ESPA

営業支援システムのエキスパート
株式会社エスパ



〒130-0026 東京都墨田区両国 3-19-5 シュタム両国ビル2F
TEL 03-5624-7231 FAX 03-5624-7232 URL: <http://www.e-space.ne.jp/espa/>

代表取締役 細村 悦子
(S60年度卒)

1858年10月、江戸築地鉄砲洲に慶應義塾の起源となる蘭学塾が開かれた。以来、慶應義塾は創立者福澤諭吉の教えに基づき、常に時代の要請に先んじた改革に取り組み続け、2008年の今年、開塾150年の記念すべき年を迎えるに至っている。我等がライバル早稲田大学は昨年創立125年を迎えた。早稲田大学の創設者大隈重信侯の持論に人生125歳説があることは有名である。しかし、実際には125歳という天寿にはそう簡単に辿りつけるものではない。両校とも、これまでに途方もない歳月を歩んできたことが実感できよう。

創立125年、150年というその期間の長さも称讃に値するが、私が感服させられるのは創立者の教えが没後も脈々と生き続けていることにある。大隈重信侯が東京専門学校を創設したのは1882年44歳のときのこと。以後約40年間、早稲田大学の建学に携わり83歳で永眠されたが、その後じつに85年以上の間、その教えが連綿と伝授されてきたのである。理念のひとつ“学問の独立”は、早稲田大学校歌の中で『進取の精神 学の独立』として生き続け、いまなお歌い継がれている。福澤諭吉先生は23歳で開塾し、帰天する66歳まで約43年間教えを説いた。法名は「大観院独立自尊居士」という。慶應義塾の基本理念“独立自尊”は、没後100年以上に亘り伝承されてきた。慶應讃歌の歌詞には『独立自尊の城南健児』の一節があり、旧塾歌には『独立自尊の根を固く』との文言があった。時は移り、時代は変われども、創立者の教えを後進たちがしっかりと引き継ぎ、次世代へと橋渡ししてきたからこそ今がある。そして、これからは我々がその教えを伝承するという大切な役割を担っていることを肝に銘じておきたい。

大学に理念があるように、部活動にも理念は存在する。早慶バドミントン部は学生バドミントン界、日本バドミントン界の発足に貢献し、その後の発展を支えてきた歴史あるチームである。両校の初代OBの方々は、早稲田バドミントン部の理念、慶應バドミントン部の教え、そして日本バドミントン界の原点を創りあげた方々でもある。創部当時と比べれば、ラケットやシューズなどの道具は格段に進化している。しかし、部員の心の中に存在する“部の教え”は一貫して変わることはないだろう。大学創立以来の記念すべき年に居合わせられた偶然をきっかけに、バドミントン部の歴史を振り返り、その教え、理念について熟考してみるのも貴いことであろう。歴史ある部の襷を握り、伝統ある“部の教え”を伝えていくのは、いまここにいる我々の使命である。早慶バドミントン部が今後10年、50年、100年…と永続し、前進し続けていけるかどうかは、我々が襷をどのように渡していくかによると思う。歴史の継承者、教えの伝承者としていま我々ができること。それは、今日のこの早慶戦の全ての場面を新たな歴史の1ページにしっかりと刻み込むことである。

KEIO WASEDA

「歴史と伝統」!! 手作りの店
部員会に! 其の他のパーティーに!

山 食

慶應義塾三田キャンパス内
TEL 03(3453)5971

早稲田大学 教育学部 昭和55年卒

石黒 之武久

昭和51年9月早朝、はじめての早慶戦の日です。前日、橋本監督（現OB会長）よりメンバーの発表があり、1年生としてシングルスに出場させていただけることになりました。4年生の先輩達が監督から名前を呼ばれての「はい！」という普段にも増して気合の入った大声の返事が今でも耳に残っています。

会場は、早大記念会堂。4年生をはじめ先輩達も次々に遠征バックを抱え登場です。いつもの姿と思いきや、何と、渡辺主将をはじめ4年生全員が皆頭を丸めているではありませんか。昨日監督からのメンバー発表後、床屋にでかけて刈り上げたのは一目瞭然です。

昨日まで、練習後のミーティングで「今年は、厳しいぞ。」と何回も繰り返していた4年生の先輩達。4年生の「頭」を目の当たりにして、早慶戦にかける先輩達の意気込みが全身に伝わってきました。

1年の対戦から試合がはじまり、私の対戦相手は同じ1年の諏訪選手。結果は惨敗。茫然自失で監督の前に立つと「ウサギ飛びやってる。」の一言。私は、先輩達の応援もせず、記念会堂の隅でずっとうさぎ跳びをやっていました。

9対6で早大の勝ち。抱き合って喜ぶ4年生。その夜、肩を組んで校歌を歌う中にも勝利に貢献できなかった悔しさと情けなさが交錯した自分をよく覚えています。

早慶戦を経験させていただいたOBとしての誇りを大切にして日々を頑張らなければと思う今日この頃です。



早稲田大学 政治経済学部 平成20年卒

金子尚弘

第56回早慶バドミントン定期戦の開催、誠にありがとうございます。伝統のあるこの定期戦で、両大学による熱い戦いが繰り広げられることを、心よりお祝い申し上げたいと思います。時が過ぎるのは早いもので、昨年の熱い試合がつい昨日のように感じます。

さて、少し私の早慶戦での思い出を話させていただきます。一年前、私は早慶戦に出場できるように、毎日の試合練習、ウェイトトレーニングなどを必死に取り組みました。そして、大学4年生にして、ようやく選手として初出場することができました。いざ試合に望んでみると、他の試合とは、まったく雰囲気が違うことに驚きました。盛大な両校の応援、大勢のOB・OGを背にしての試合は緊張感あふれるものでした。そのような中、慶應に負けまいという気持ちで、必死でシャトルを追いかけ、試合をできることは、私にとって最高の喜びでした。今でも、時々あの感覚が呼び起こされます。ぜひ現役の皆さんは、早慶戦独特の雰囲気の中で、試合をできる喜びを全身で感じ取りながら、最高のプレーを、自分のため、そして各々の母校のためにして下さい。全力で両大学がぶつかりあうのを楽しみにしております。また、4年生にとっては、この早慶戦が引退試合となります。大学生活4年間、バドミントンにひたすら打ち込んできた証を後輩たちに見せて下さい。そして、3年生以下の後輩たちは、先輩のプレーする背中から何か一つでも学び取って、それを自分たちの世代で生かしてくれればと思います。

早慶戦は、真剣に勝負する場であるのはもちろんのこと、4年生から後輩たちへバトンを引き継ぐ場でもあり、両校の親睦を深める場でもあります。こうした様々な要因が絡み合うことで、いくつもの名勝負が生まれてきました。今年の早慶戦でも、きっと名勝負が生まれるでしょう。

最後になりましたが、この定期戦を開催、運営するにあたり、ご苦勞をなされた部長、監督、コーチ、諸先輩、主務、副務、諸関係者の皆様方に厚くお礼を申し上げ、両大学のさらなるご発展を心よりお祈り申し上げます。

慶應義塾大学 法学部法律学科 昭和57年卒

加藤 幸司

私が早慶戦を見るようになったのはここ1、2年である。互角に競っている場面もあるが、かなりの割合で早稲田が押している光景を見せつけられる。しかし私は塾の圧倒的な劣勢を目の前にしても、決して席を後にする気は起こらない(ならなかった)。それは応援する者の態度として当然なのかもしれない。ただ私にはそれとは別に、試合はゲームセットが告げられる最後の最後までわからないという考えが強くある。相手がマッチポイントを握っていても、そこでアキレス腱を断裂するかもしれない。それは自分たちにも言えることである。だから決して最後まで試合を諦めてはいけないうし、攻撃の手を緩めてもいけないのである。もし、慶應の学生が試合を投げ出したり、緩慢なプレーや手を抜いたプレーを見せたりするならば一緒に戦っている気持ちには到底なれないだろう。ポイントが大きく離れれば、どうしても気持ちに隙ができ、心の揺らぎが起こりかねない。たとえ大量リードをしていても、されていても決して手を抜くことなく、攻撃の手を緩めることなく相手と対峙し続けることは、相手と一緒にプレーするというバドミントンで一番大切なことにつながるのではないだろうか。学生がこの基本的な態度(スタンス)を身につけ、フェアプレーの精神を持って真摯に戦い続ける限り、私はその戦いから目を離すことはできない。

早慶戦は今年で56回を数える。これまで行われた一つ一つの大会に、多くの人たちの無数の想いが積み上げられてきたに違いない。その積み重ねがいつしか大きな流れとなり、伝統となって今なお歴史を築きつつある。この伝統の早慶戦という祭りの場で、今年も好敵手早稲田と出会い、自らの持てる力を出し切ろうと奮闘する中で、学生は練習では決して見せることのなかったパフォーマンス(力)を発現してくれることだろう。早稲田によって力を引き出されるという表現が相応しいかも知れないが、これも早慶戦の魅力であり、バドミントンの魅力でもあると思う。

現在、男子は十七連敗、女子は七連敗中であるが、早稲田の胸を借りながら大きな目標の一つである早稲田を倒し、いつかこの連敗の歴史が連勝の歴史へと移りかわることを願ってやまない。私もできるだけ多くの時間を部員と過ごし、目標達成のために向かいたいと思っている。

最後に、戦いに臨む学生に次のことを贈りたい。
“ここをコントロールしてほしい。ゲームをコントロールしてほしい。そして立派に戦ってほしい。そして優れたバドミントンと出会ってほしい。”



慶應義塾大学 環境情報学部 平成16年卒

野村 由貴子

第56回早慶バドミントン定期戦の開催、心よりお慶び申し上げます。

大学を卒業してから早5年、大学生活よりも長い年月が経ち、時の流れの速さに驚くばかりです。

早慶戦に関して最も印象に残っているのは、初めて参加した1年生の時です。男女とも長い間、チームとしての勝利が遠ざかり、今年こそはと意気込んで迎えた早慶戦でした。今まで団体戦はいくつも経験してきましたが、やはり他の団体戦とは全く違った雰囲気を感じた記憶が甦ります。

試合開始のかなり前から記念館の外に出て、猛スピードで走りながら相手に負けじと大声を張り上げウォーミングアップを行うため、試合が始まる頃には疲れて果ててしまうのではないかと心配しました。今振り返ってみれば、早慶戦の独特な雰囲気に飲まれないよう、多少くたびれて力を抜くための準備なのかもしれないと思います。私は後半足がつかいながらも、部員やOB・OGの方々の応援に支えられ、時には応援部の親衛隊(?)のような応援に少々和みながら、何とか2勝を挙げる事が出来ました。女子チームとしても15年ぶりの勝利で、その場に自分が関わったことを非常に嬉しく感じた瞬間でもありました。

その後は部員が非常に少なくなり、男女共にレギュラー争いはなく部員総勢で戦う時期が続きました。4年生の頃には、女子チームはついに団体戦も出来ない程の人数になり、寂しい思いもありましたが、個人的に自分の試合は勝ってポイントを上げるという目標を掲げ、挑戦し続けました。残念ながら最後の早慶戦では達成できませんでしたが、非常に充実した4年間であったと思います。

現在はメンバーも多いので、早慶戦に参加するべく熾烈なレギュラー争いが繰り広げられたことと思います。レギュラーは出られなかったメンバーの分まで力を出し切り、楽しむことを期待しています。残念ながら出場できないメンバーも、今日一日はレギュラーをサポートしながら、早慶戦を楽しんで下さい。そして、来年こそという思いを持って練習し、レギュラーを脅かす存在になって欲しいと思います。最後になりましたが、第56回早慶バドミントン定期戦の成功と両校バドミントン部の更なる発展を心よりお祈り申し上げます。

早稲田大学 スポーツ科学部 平成20年卒（前年度主将）

日下直人

伝統ある早慶バドミントン定期戦が、今年もまた無事例年通り開催されることを嬉しく思います。早いもので昨年の早慶戦から一年が経ちました。当時の後輩たちが先輩として今のチームを率いている姿を想像すると非常に頼もしく感じられます。両校ともに4年生の元一致団結し、早慶戦にふさわしい白熱した試合を見せてくれるでしょう。期待しています。

私は4度早慶戦に出場させていただきましたが、中でも昨年の早慶戦には並々ならぬ思いを持って望みました。伝統ある早慶戦を大成功に導くことが主将としての最後の仕事だと思っていたからです。そんな中、手塚君、光井君との主将戦ダブルスは、主将としての意地と意地がぶつかり合った、好ゲームでした。4年間の集大成として望んだ最後の早慶戦に最高の試合ができたことを誇りに思いますし、最後まで応援してくれた仲間たちに感謝しています。パートナーの西本君も、独特の雰囲気の中でよく頑張ってくれました。対戦相手の手塚君は同じ主将として、お互いに励ましあってきた良き仲間でもありました。こうした慶応諸君との交流を通じて新しい仲間と出会えることも早慶戦の魅力ではないでしょうか。

様々な考えがあると思いますが、私個人的には、早慶戦は現役の為のものであると思っています。私自身、早慶戦を通じて多くのことを学ぶことができました。現役生諸君には、是非とも積極的に働きかけ、野球やラグビーに負けなくらい自分たちの早慶戦を作り上げて欲しいと思います。必ずや、今後につながるすばらしい経験ができることでしょう。

最後になりましたが、今大会を運営なさる方々に感謝し、早慶両校の更なる飛躍につながる大会になるように御健闘をお祈り申し上げます。

WASEDA **早慶戦に寄せて** KEIO

イベントでTシャツをつくりたいならば、
当店のカスタムオーダーをご利用ください！
※スウェット・パーカ等、各種アイテムあり。



Tシャツ

www.redbros.jp

レッドブロス で検索してください！

当店でしか買えない、レッドブロスオリジナルの、
たくさんのTシャツが、お待ちしております！

 **RED
BROS.**

**Order
Tshirts
¥980~**

慶應義塾大学 法学部政治学科 平成20年卒 (前年度主将)

手塚 純平

第56回慶早バドミントン定期戦開催おめでとうございます。本大会の開催にあたり両校準備委員をはじめ運営に携わって頂いた関係者の方々に御礼を申し上げます。

今夏は北京オリンピックに日本中が熱狂し、バドミントンもこれまでに注目された大会となるなど、気温以上に熱く興奮した夏となりました。私は前回のアテネオリンピックの年に慶應義塾大学に入学し、塾バドミントン部に入部したので、それから早4年が経つのかと思うと北京オリンピックのテレビ中継を見ながら感慨深いものがありました。

4年前の慶早戦、1年生だった私は高校時代から憧れていた舞台上に立てる喜びと大学トップレベルの選手達と試合ができる興奮とで、無我夢中でコート駆け回りシャトルを打ち返したことを今でもハッキリと覚えています。当然、負けた悔しさは一生忘れることがないでしょう。しかし、その時の経験があったからこそ、学年を重ねるごとに「慶應義塾」の看板を背負って戦う責任感は一層大きくなり、「打倒早稲田」を合言葉にチームメイトや監督・コーチと一体となって戦い抜くことができたのだと思います。以前、かつての定期戦パンフレットのコピーを五月女監督が用意して下さい、大先輩がどのような思いで慶早戦を戦っていたのかということ部員全員で読み合わせをしたことがありました。その文章から「打倒早稲田」「打倒慶應」を目指す両校の並々ならぬ決意・意気込みがピンピン伝わってきた瞬間の記憶は今でも鮮明に残っています。そのような先輩方のメンタリティや姿勢・行動・努力というものが大学4年間の自分自身の励みや刺激となったことは間違いありません。それだけ私にとって慶早戦の存在は大きなものであり、大学4年間の自分自身を成長させてくれた試合でありました。

また、慶早戦は両校の現役選手達にとっては1つの締めくくりであると同時に転機でもありました。それは1年間かけて最上級生が培ってきたチームを表現する最高の舞台であると同時に、今後の新チームが垣間見える楽しい瞬間でもあります。昨年の慶早戦後、光井主将を中心として今年の新チームも走り始めました。始めは危なっかしいところも多く心配しましたが、今では山口・前田・和栗・藤原と共に立派にチームの先頭に立ち、最上級生が部員の誰よりも練習に汗を流してきたように思います。3年生以下の後輩たちもそんな彼らの背中を見て成長してきてくれていると感じています。

光井主将率いる今年のチームは、「本気のチーム」をコンセプトに取り組んできました。現4年生が「本気」というキーワードにこだわるのも、思い出せば彼らがまだ入学した当時から納得できます。勝利に対して貪欲であり、慶應義塾を強くして卒業までに2部に昇格しようと1年生の時から彼らは言っていました。まだまだ周囲のことも全然見えておらず、身の程知らずで生意気な後輩達でしたが、「塾バドミントン部を強くしたい」この気持ちだけは偽りがなく、一生懸命4年間取り組んできてくれたと思います。学年が上がるにつれて、自分のことだけでなくチームのことを考えられるようになってきたと成長を感じられるようになって、より一層チームに活気を与えてくれるようになりました。今年も多くの新入部員が塾バドミントン部の門を叩いてくれたのも、その1つの証なのかもしれません。

そんな最上級生にとっては、本大会がいよいよ大学最後の慶早戦となります。最後まで自分達らしく明るく楽しく前向きに勝利を目指して頑張ってくださいと思います。3年生以下の部員達には自分の持てる全てのアンテナを張り巡らせながら、目の前で起こる本大会での出来事を一瞬たりとも見逃さずに、よく観察して脳裏に焼き付けてほしいと思います。そして、もちろんプレーでも慶應義塾の勝利に向けて全身全霊をかけて戦ってほしいと思います。光井主将率いるチームが最高の輝きを放つ瞬間と、自分の出番を待ち望んでいる若い新しい力が台頭する瞬間を楽しみにしております。
ファイト慶應!!

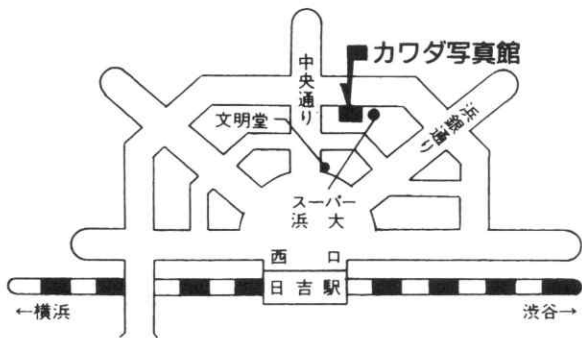
KEIO

慶早戦
に
寄せて

WASEDA

- 卒業記念写真
- 出張記念写真

- 各種証明写真
- 就職用写真



カワダ写真館

〒223 横浜市港北区日吉本町 1-2-7

Tel 045(562)3668(スタジオ)

045(562)3667(自宅)

営業時間 午前10時～午後6時

今年も早慶バドミントン定期戦を迎えることになりました。本年度で56回を数えるこの歴史ある大会に主将として出場できることに最高の名誉を感じるとともに、主将として我が部に勝利をもたらさなければならないという責任感を強く感じる次第であります。

さて、我が早稲田大学バドミントン部は今年の春季リーグ戦で男子3位、女子4位と十分に満足できる成績ではありませんでした。その悔しさをばねに部員一丸となり厳しい練習を積み、苦しい合宿を乗り越え、体力的にも技術的にも確実に進歩したものと確信しております。この成果をいかに発揮し、伝統ある早慶戦において勝利を収め、さらなる目標に進んでいきたいと思っております。

また、実績だけではなく、団体戦でこそ真の実力が発揮する早稲田の勢いに是非ともご注目ください。特に部員30名全員が声を張り上げる早稲田の大声援は必見です。それは間違いなく日本一であると自負しております。

慶応学生の諸君、お互いに日頃の練習の成果を十分に発揮し、正々堂々と個々に納得のいくプレーをして早慶戦にふさわしい最高の試合をしようではないか。

最後になりましたが、常日頃から応援激励してくださっているOB・OGの皆様に厚く御礼を申し上げ、第56回早慶バドミントン定期戦が無事に開催されることを願って主将の抱負と代えさせていただきます。

WASEDA KEIO

炭火香房 楽丸

座敷 全80席
テーブル席 60席

◎ 宴会コース

飲み放題+料理5品 **¥2500**

20:30以降 飲み放題+料理3品 **¥2000**

高田馬場駅前名店ビル4F

TEL 03-3209-5768

今年も早慶戦という伝統の戦いを迎えることができ、大変誇りに感じております。まず、この伝統の早慶戦の日を迎えるにあたり、大会の開催に際して尽力して下さいましたOB、OGの皆様、準備委員、そしてこの1年間、我々を支えて下さった全ての方々に御礼申し上げます。

早慶戦という大舞台は私にとって、大変大きな存在であり続けてきました。多くの先輩方の最後の勇姿を一年生の頃から見届けてきました。特に、自分にとって最後の主将戦というのは特に印象深いものです。森主将、広田主将、手塚主将のリーダーたる、魂のこもったプレー姿を今でも忘れることはできません。先輩方のプレーを目に焼き付けようと必死に目で追っていたのを覚えています。そして今年、自分がそんな主将戦という舞台に主将として立てるということに大きな誇りと責任を感じています。

1年生の時、ただ格上としか知らなかった早稲田と対戦し、ただただその次元の違いに驚き、そんな相手と戦っていることに喜びを感じるばかりでした。2年生の時は、早慶戦の歴史と重みを学び、早稲田に一泡吹かせてやると意気込んだ早慶戦は怪我で出場することはできませんでした。しかし、コートの外から仲間のプレーする姿を見て、応援する中で、チームで戦うことの喜びと、このチームで早稲田に勝ちたいという気持ちが自分の中でとても大きく確かなものとなった早慶戦でした。3年生の時、手塚主将の下、チームとして早稲田に勝利することを目標に掲げ、臨んだ早慶戦。宿敵早稲田を倒す気持ちで臨んだ結果、0勝15敗に終わりましたが、やっと敗北が心から悔しいと思えた早慶戦でした。諸先輩方の意思を受け継ぎ、「次は勝つ」そう決意しました。そして今年、気づけば現役として最後の早慶戦を迎えようとしています。まず、最上級生として主将としてこの早慶戦を迎えられることに心から感謝したいと思います。

今年、私たちチーム一同は「本気」という言葉をスローガンにし、リーグ戦と共に早慶戦での勝利を目標に掲げ、日々を大事に積み重ねてきました。我ら慶應バドミントン部は、今、バドミントンを愛し、練習に本気で取り組む。そしてチームとしての意識を大事にし、チームのあり方を一人一人が考える、そんな集団であります。脈々と続く打倒早稲田の意志は、今やとても太い一本の幹となっています。そう簡単には折れないでしょう。そして今年、早慶戦創立150年という記念すべき年です。このような記念の年に、最後の早慶戦をしかも我らが記念館で迎えられることに感謝をし、150年分の想いと力を全てぶつける覚悟で臨みたいと思っています。また、去年の早慶戦が終わり、手塚主将からバトンが渡されてから、これまで私と共にチームを支えてくれた部員の皆に心より感謝しています。ここまで私についてきてくれた部員のみんな、本当にありがとう。この早慶戦という最後の大事な仕事、チーム一丸となって派手にやり遂げよう！

そして、早稲田諸君、楽しみにしていて下さい。
今年の慶応は、勝利に貪欲なんです！しつこく、粘り強いんです！

KEIO VS WASEDA

祝 早慶バドミントン定期戦

財務・資金繰りのことなら

宮地会計へ

税理士・経営士・産業能率大学教授

宮地 昌之 (昭和56年慶大経済卒)

〒245-0002 横浜市泉区弥生台 29-1-301 TEL045-812-1842

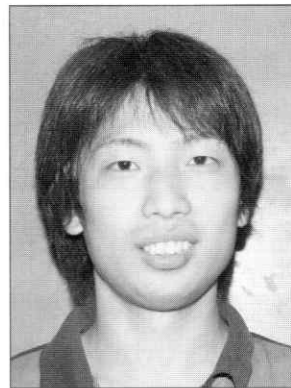
e-mail masayuki56@cam.hi-ho.ne.jp

H.P. <http://www.e-adviser.jp/miyachiao>

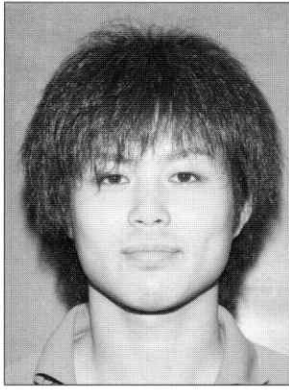
WASEDA



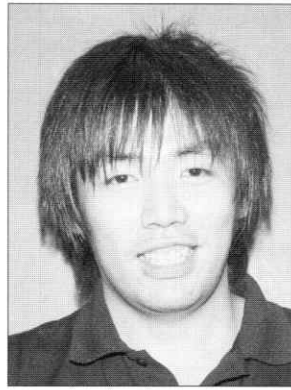
主将
川口 謙太郎
スポ科4
八代東(熊本)
馬場からは急行より各停を愛する彼。練習と食事以外では女のことを常に考え、女のためなら裸で日本1周もできる彼は根っからのリーゼントである。



副将
木村 雄一郎
社学4
八代東(熊本)
飲み会の時95%の確率で暴走モードに突入する彼。しかし、通常時でも暴走モード突入率80%とハイスペック仕様になっている。通常時サッカーで意味なくボールを上上げるのが暴走モード確定演出となっている。



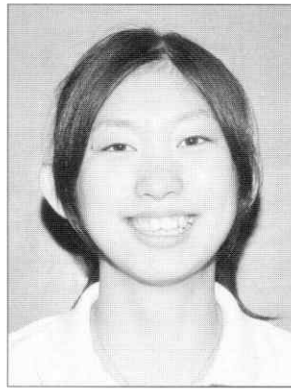
副将
須藤 郷史
教育 4
常総学院 (茨城)
ストライクゾーンが小惑星規模の彼。女性でさえあれば必ずストライクになるらしい。なんだか言ってみると、長年の付き合いである羽石のことが大好きである。



主務
大芝 純輝
社学 4
両国 (東京)
体内にサブタンクを搭載し、幾多の居酒屋で飲み散らかしている彼。今まで数々の挑戦者がいたが八割は返り討ちにあっている…。ちなみにお気に入りのウエアはanvil。



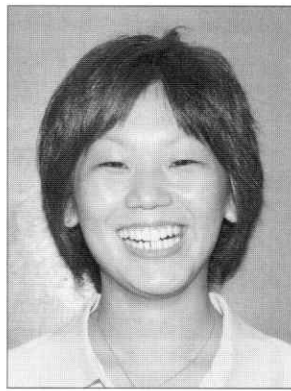
女子主将
永野 陽子
スポ科 4
札幌静修 (北海道)
5歳の時にニホンカモシカの足を手に入れた彼女。北海道の血を色濃く受け継ぎ、シャケを素手で取る。そんな彼女の信頼は厚く、ポストライス国務長官の呼び声も高い。



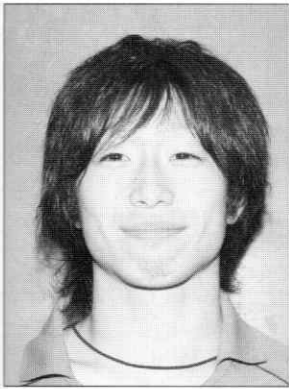
関谷 真由
スポ科 4
九州国際大付属 (福岡)
安定して高い実力を発揮できる彼女。まじめに練習に取り組む姿はみんなの良い手本である。バドマガの写真うつりがあまりよくないのが悩ましい。



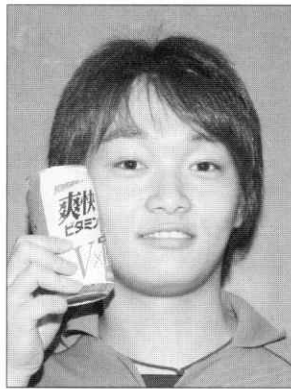
佐々木 彩香
社学 4
聖ウルスラ (宮城)
早稲田が誇るダブルス職人である彼女。皮下脂肪を生かしたスマッシュのパワーは圧巻だが、角度がつかないのが悩ましい。



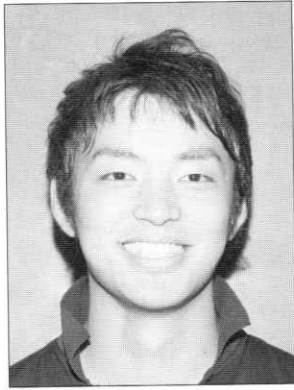
片岡 友紀
一文 4
久居 (三重)
見るからにセーラー服と金属バットが似合いそうな彼女。あの切れ長の細い目でガンつけられたら、ヒグマも黙るらしい。



松浦 翔
スポ科 3
青森山田 (青森)
最近バイト先をフジヤマから〇ヤマに変えた彼。彼は次期女子高生ハンターを誰に継承するか悩んでいるらしい。二代目候補は山田雄一か上田拓馬が濃厚。



羽石 直弥
社学 3
常総学院 (茨城)
頭の良いバカ。彼を表現するにはこの一言で充分らしい。



小松 俊介
スポ科3
新宿（東京）

養鶏所でチキンと共に育った彼。そのチキンっぷりとは対照的にビッグマウスの実力は四年後のロンドン五輪を見据えるほどのものである。



江淵 愛美
スポ科3
高岡西（富山）

いつ見てもラケットを振ったりトレーニングに励んでいる彼女。練習の甲斐あり試合では結果を残すがサーブだけは・・・。



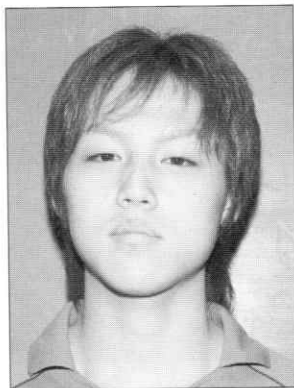
大條 小真姫
社学3
滋賀女子（滋賀）

部内きってのセクシーキャラの彼女。その可愛いオーラとしぐさにK松さんは心をときめかしている。



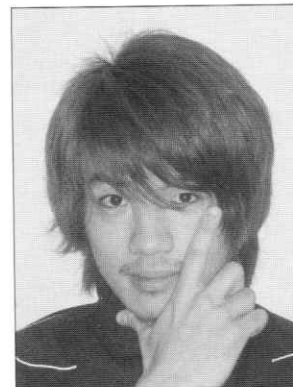
丁塚 真紀
教育3
聖ウルスラ英智（宮城）

宮城が生んだ早稲田のスーパーアイドルっぽい彼女。ファンクラブに入るともれなく一緒に昇龍軒に行くことができる特典付き。



上田 拓馬
スポ科2
埼玉栄（埼玉）

ご存知バド界の王子である彼。バドの強さでは群を抜くが、肝臓に弱点がある。バドで相手にならないあなたも打ち上げでは容易に勝てるだろう。



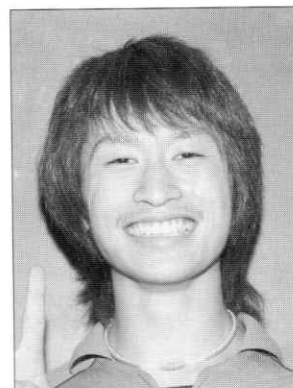
佐々木 啓
スポ科2
埼玉栄（埼玉）

京浜東北線を運転することが夢の彼。ボランティアに対する意識が高く、毎日ポイ捨ては欠かさないらしい。大学にいる間の目標は二分間まばたきしないこと。



笹木 里司
スポ科2
勝山（福井）

ダンディーなヒゲとスコーンがよく似合う彼。アグレッシブなプレーの中で稀に見せるきわどいシャトルに息を吹きかけアウトにしまおうのはまさに神業。

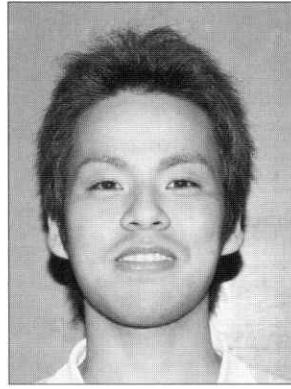


西澤 潤
人科2
延暦寺比叡山（滋賀）

滑舌の悪さならアカデミー賞の彼。太ももの筋肉は評判で、食べても三ツ星レストランで出るほどの最高級品。好きな言葉は「ボーナス確定」。



山田 雄一
 教育2
 関東第一（東京）
 やさしさのサイコロステ
 ーキの異名を持つ彼。
 鼻の下の長さを自在に
 変化させることですべ
 ての感情を表現する。渾
 身のボケを言った後の
 鼻の下は東京中国間の
 距離に匹敵するらしい。



西本 卓矢
 スポ科2
 伊丹北（兵庫）
 ヒゲを剃る時はヒゲソリ
 3つを使用する彼。食べ
 ることを愛し、ちゃんこな
 べのCMからのオファー
 が多い。くつの中からキ
 ノコが生えるとか生えな
 いと言われていた彼の
 愛称は「亀」。



木村 唯菜
 スポ科2
 金沢向陽（石川）
 部内一のがっつきを持
 つ彼女。練習へのがっ
 つきもすごいが、何か
 を値切る時のがっつき
 は半端ない。出禁を食
 らうのもそう遠くはな
 いかもしれない。



伊藤 小菜美
 教育2
 聖ウルスラ英智（宮城）
 何かとO芝さんに目を
 付けられる彼女。基本
 的には人の話を聞か
 ず
 にケータイをイジって
 いるため、からむとス
 トレスが溜まること必
 至である。

祝 早慶定期戦

各種記念ペナント調製

マーク・ワッペン・旗・腕章

オギワラ

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 1-8-24

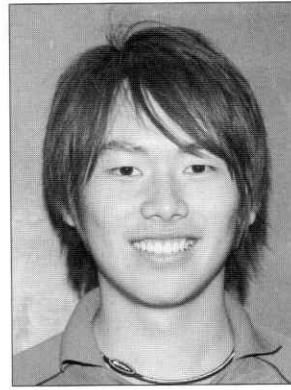
早大東門前大隈通り

TEL 03 (3202) 7 8 4 6

FAX 03 (5273) 8 2 8 5

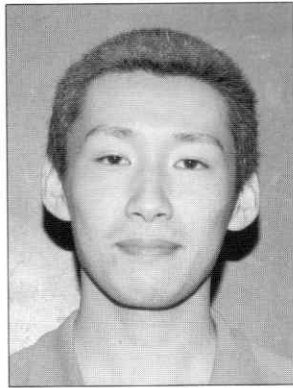


堀川 実穂
教育2
関東第一（東京）
クレオパトラを差し置いて世界三大美女に君臨する彼女。家庭的で結婚したい女子部員NO. 1であるがデートに誘うと食事代がバカにならないため要注意である。

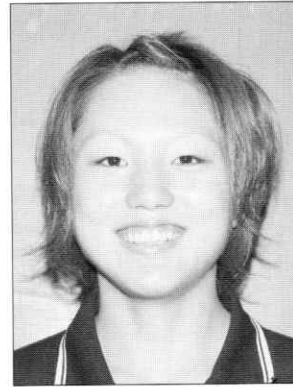


嘉村 健士
スポ科1
八代東（熊本）

爽やかな顔とフレッシュさが光りまくる彼だが、持ち前のだらしなさも輝いている。部屋をきれいにしましょう。
by 上田



及川 拓人
スポ科1
水沢（岩手）
裏モノ収集家の彼。ビデオからDVDに移った時期には苦労したが、今ではすっかりお手の物である。来年入ってくる後輩にはいろいろなことを教えたいらしい……。



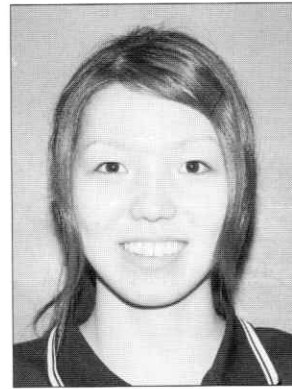
桜井 みどり
スポ科1
金沢向陽（石川）

がっつきに関しては向陽の伝統をしっかり受け継いでいる彼女。食のがっつきもピカイチ。



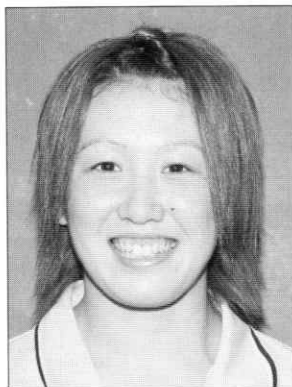
藤田 理恵子
スポ科1
岡崎城西（愛知）

コートに入ると顔が変わる彼女。たまにニュース JAPAN にも出ていていろんな顔を持っている。



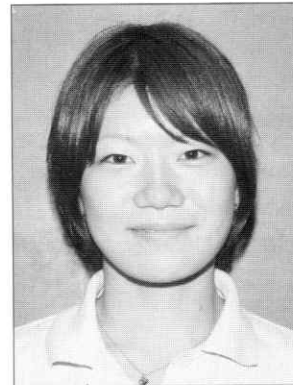
西山 夕美子
スポ科1
青森山田（青森）

いい!と思ったらすぐ手に入れたがる彼女。でもなんでも手に入っちゃうんですよね~!



片山 佳菜
スポ科1
高岡西（富山）

入学してから髪の毛を伸ばすと言っているのだが、なかなか伸びない彼女。結べる日は来るのだろうか?



山田 早織
スポ科1
愛知淑徳（愛知）

バド部一のおんなの子。おんなの子の中のおんなの子。唯一おんなの子。

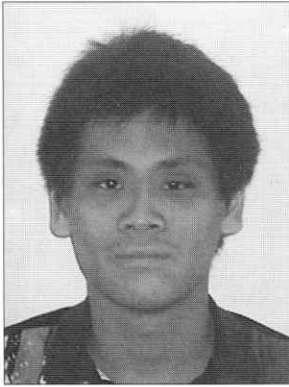
KEIO



主将
光井 翔
商 4
浅野 (神奈川)
我が部の頼れるちっちゃな大黒柱。彼はお酒を飲むときはベルトを手放す。そんな彼のかつてのマシュマロのお腹は、今や鋼鉄のお腹と化した。



副将
山口 悦伺
商 4
東海 (愛知)
故障が多いが、レギュラーの座は譲らない。バドミントンの技術だけでなく、飲み会で後輩に飲ませる技術も高い。写真ではいつも決め顔なのは気のせいだろうか…。



前田 賢志
理 4
慶應義塾 (神奈川)
部活引退後はK1参戦も? スーパーアスリートフードのバナナが部内で最もよく似合うという慶應の大砲は、プレーの新境地を求めて日々肉体をいじめ抜く!



主務
和栗 恵
政 4
慶應義塾女子 (東京)

部費の無駄遣いは許さない— 常に目を光らせて浪費を阻止せんとする和栗さん。そんな彼女の命令には主将すら「はいっ」と従う。

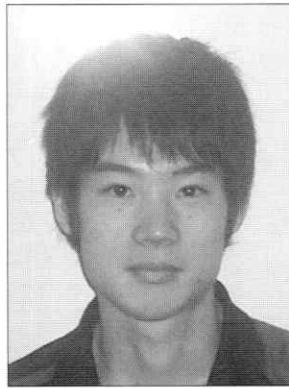


女子主将
藤原 めぐみ
環境 4
大和西 (神奈川)

いつも笑顔で優しく丁寧に指導してくれる藤原さん。男子には厳しく怒ると怖いとの噂も…女子部員の頼れるリーダーである。

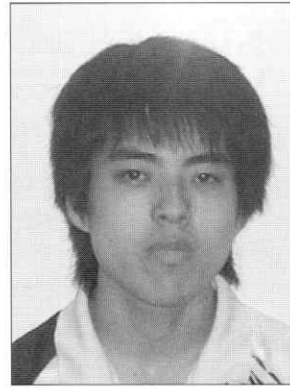


高橋 慧
法 3
慶應義塾 (神奈川)
笑い声の絶えない彼は部になくはならない存在。イケメンだと自負しているが、周りからは猿岩石の有吉に表情が似ていると言われている。この人、ドケチである。

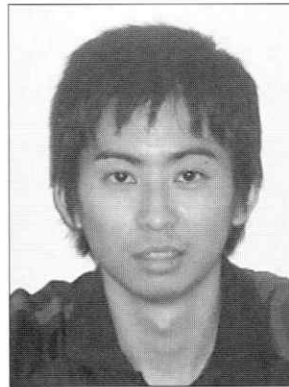


石岡 陽平
経 3
慶應義塾 (神奈川)

1に努力、2に努力、3 4も努力で5も努力。つまりドMである。しかし私生活ではSというウワサも…。甘いマスクをしているが、口は激辛。

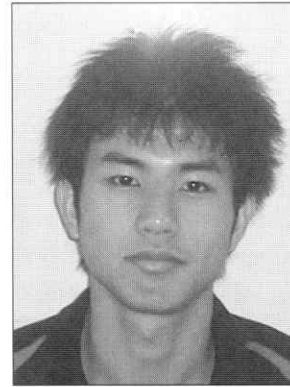


副務
中津 哲彦
経 3
開智 (埼玉)
この春、ついに愛用していた眼鏡を外した。眼鏡を外したと同時に性格にも変化が!? 「今風の髪型にしてください!」と美容師に言ったとか言ってないとか…。

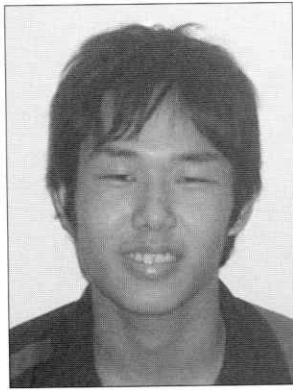


渋谷 康太
商 3
東葛飾 (千葉)

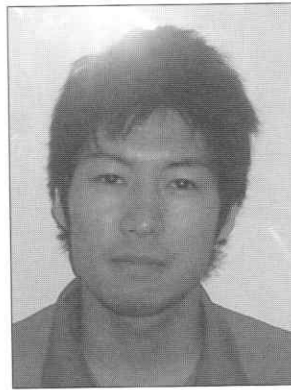
バランス感覚の優れた渋谷さん。全てを無難に乗り切る。食生活の多くがコンビニ白の廃棄が活用されていることだけが心配だ。



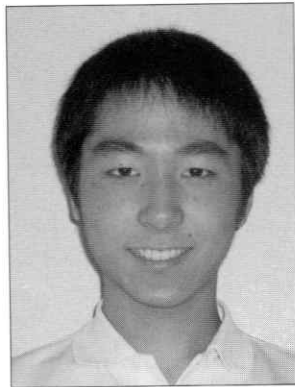
中村 卓磨
理 3
海城 (東京)
理工学部の後輩であるシラガサワを誰よりも心配するものの、当人に舐められるという仕打ちを受けてしまった超善人の卓磨さんは今宵、炎の戦士となりて逆襲を狙う。



福崎 淳一
理3
高松商業（香川）
香川県を愛して止まない彼。東京より香川のほうが都会だと言い切っている。目つきが少々鋭いが、性格は非常に温厚で後輩の面倒見もよく、部の人気者である。



中嵩 優
環3
都留（山梨）
ヤバイ・・・とりあえず、ヤバイと彼はいう。それは彼の感情の全てを表す言葉である。三年生になってますます後輩いじりがエスカレートして今では日課となっている。



森本 修介
環3
日本大学第三（東京）

この夏からアメリカに留学中の森本さん。きっと今頃必殺技である「悩殺爽やかスマイル」で金髪美女を次々と虜にしているだろう。



高橋 千怜
経3
大妻多摩（東京）

いつも一生懸命で、向上心の高い千怜さん。惜しまぬ努力で日々バドミントンに磨きをかけていく。健気に頑張る彼女の姿に全米が泣いた。



中井 舞
商3
三鷹（東京）

キャップがトレードマークの中井さん。独特な空気ですみんなを和ませてくれるが、そのキャラはいまいち掴みきれない。



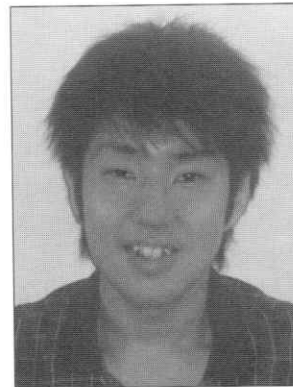
安達 華
理3
慶應義塾女子（東京）

現主務ファンクラブ会員番号1番。飲み会などで隣りになると嬉しそうにする華さんは、後輩に対しても「ごめんね」が多い可愛らしい先輩である。



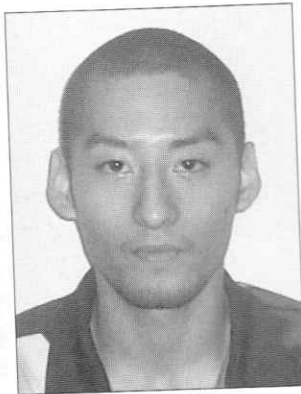
本田 聖子
看3
慶應義塾女子（東京）

豊富な知識と繊細なテーピングで、負傷した部員を癒す聖子さん。普段は天使のようだが、お酒の席では笑顔で後輩に酒を飲ます悪魔の一面も。



真栄城 優
政2
多摩（神奈川）

独自の理論を展開し、2年にマエシロニズムをもたらした男。何人たりとも彼を論破できないだろう。「俺はニコ厨ですが、何か？」

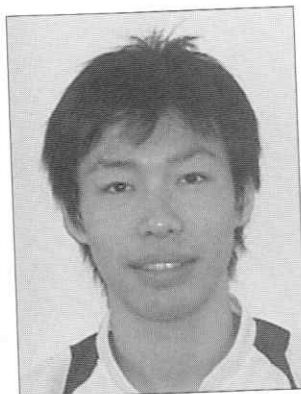


船矢 竜太
経2
慶應義塾 (神奈川)

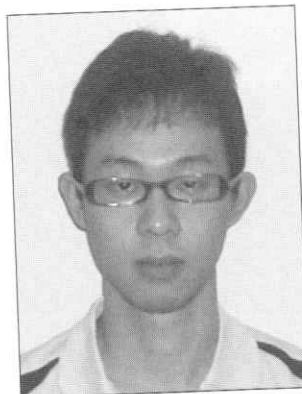
無口でクールな船矢。背は小さいが、バドミントンに対する気持ちはその体に入りきらないほど大きい。髪の毛より髭のほうが長いのでは!?との噂も。



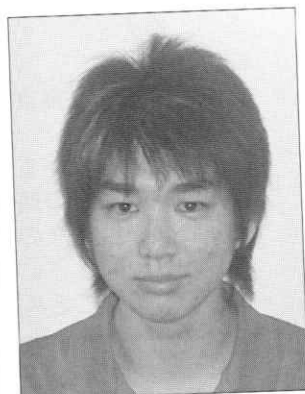
本田 裕士
経2
浦和 (埼玉)
髪を切るお金がないと言いつつ、先日絢香のライブでグッズに7000円も使った浪費家。実はラケットを振るよりもフライパンや中華鍋を振る方が得意だったりする…。



白ヶ澤 直樹
理2
宮崎大宮 (宮崎)
お調子者で、粗相が多い。モノマネが得意で、先日は光井主将のモノマネをして主将のハートをぐっとつかんだ。彼のクネクネしたフォームから繰り出されるショットは未知数。

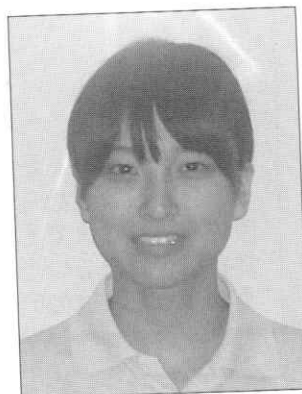


植田 啓生
総2
浅野 (神奈川)
複雑な過去を持つ彼はまさに人生の迷い人である。本人曰く、「人生の9割は苦難」らしい。そんな彼はこの部で1割の幸福を手に入れようと必死だ。特技は青春 (笑)



兵藤 博朗
総2
浅野 (神奈川)

最近、かわいいキャラを狙っているようである。しかし、彼はそれで何でも許されると思っているなかなかのプレイボーイでもある。



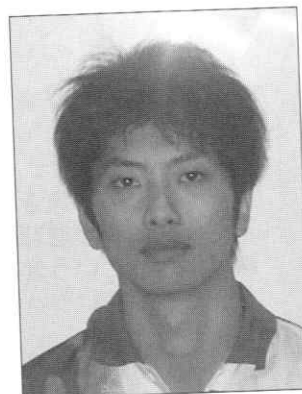
清家 薫
文2
松山東 (愛媛)

テンションが上がると見た目の軽さのように薫の口の軽さは止められない。合言葉は「球に負けない」。本人曰く筋肉は付いているらしい。



石川 陽菜
法2
慶應義塾女子 (東京)

2年の司令塔、陽菜。彼女の辞書に「手を抜く」という言葉はない。そんな彼女には時折上級生ですら「石川先輩」と恐れをなすことも。

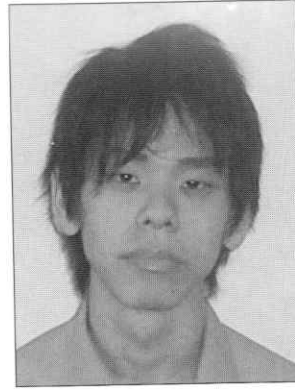


須賀 亮太
経1
慶應義塾 (神奈川)

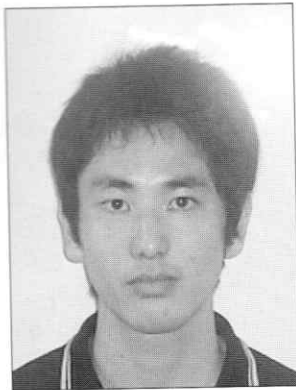
同期のことを常に気にかけている心優しいこの男、爽やかすぎる! あまりにも爽やかなので、きっと何か裏があるに違いない。



野村 和秀
商1
土佐（高知）
美味しい焼き鳥屋でバイトを頑張る一年生。彼の良質な筋肉から打ち出される鋭いスマッシュに期待。因みに、テンションが上がるとパートナーに抱きついて離さない。

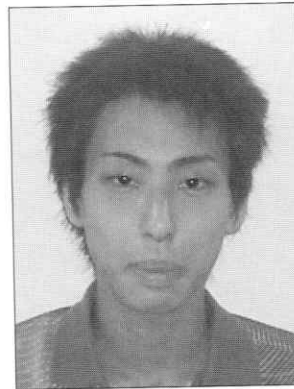


全先 伸一
商1
慶應義塾（神奈川）
入部前には「船矢さんを尊敬してます！」と断言していたものの、入部後の歓迎会ではあっさり光井主将に乗り替えたくせ者。バドミントンのフォームを変えるために日々奮闘中。

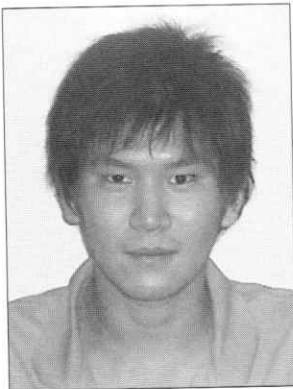


柳原 秀
理1
逗子開成（神奈川）

爽やかな外見の彼は、女子の先輩にも「飲みなよ～」とか言われて可愛がられている。しかし、その実態はムッツ(ry

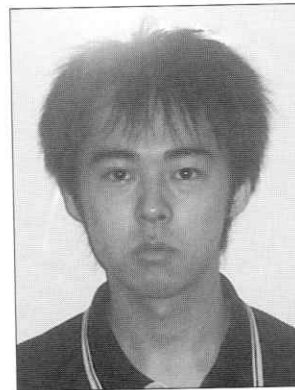


山口 哲生
理1
藤島（福井）
一見細身だが、実は筋肉隆々の彼。日々先輩から課されるトレーニングを乗り越え、なおかつ喜ぶ。飲み会の出席率もパーフェクトな、期待のスーパールーキーである。



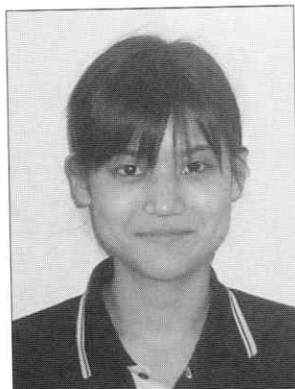
竹内 裕詞
総1
旭丘（愛知）

浪人時代に大きくなった肉体が段々と絞られていく。どこまでその体が引き締まるのだろうか？ただ、彼のデザートはチャーハンである。



三澤 悠大
総1
日本大学第三（東京）

何故かアリの怖がる三澤。素直で先輩の頼みを断れない性格なので、先輩からいいように使われてしまうこともしばしば。



松本 悠莉亜
政1
慶應義塾女子（東京）

一見普通に見えて、しゃべるとその印象を覆す不思議満載の悠莉亜。時にポスっという音をさせながら鋭いショットを放つ。



田中 優子
商1
小石川（東京）

こりん星からやってきた子。そんなメルヘンな少女にもかかわらず、声出しはとて大きくショットは超パワフル。ギャップの素敵な女の子です。



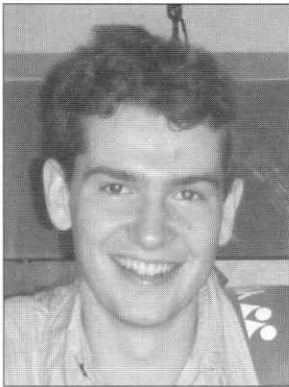
植田 悠
環境1
九州国際大学付属(福岡)

天然なはるかが発する言動は予測不可能。小さな体で大きくコートを動きまわるように、小動物のような可愛らしいリアクションも大きい。

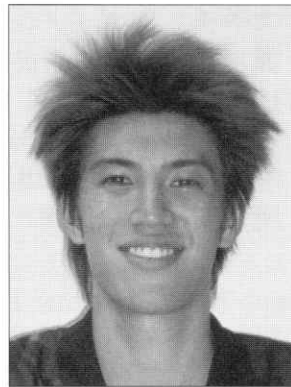


佐保田 恵
環境1
多摩(神奈川)

1年のお母さんの存在の“さほ”。同期が何かやらかしたら彼女が謝る。そんなしっかり者の彼女もお酒の席での先輩の厄介さにはたじたじである。



オリビエ
オリビエの軽やかで華麗なフットワークは太平洋をも飛び越える！本人曰くカナダから日本に来ることは大してワケないことらしい。



カール
香港からの留学生。ダブルスでタイトルを獲得したことがある猛者。女の子が大好きでいつもニヤニヤしているが、コートに立てばスーパープレーで周囲を沸かせる。

祝 早慶バドミントン定期戦

良い品を どこよりもお値打ちに

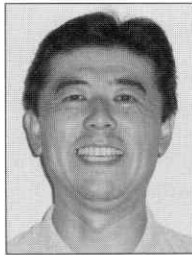
紳士服 オオニシ

代表取締役 大西紀幸 (昭和57年慶應大学法学部卒)

平針店 名古屋市天白区平針2-1713 TEL 052 (804) 1235

豊田店 豊田市広路町1 ジャスコ2F TEL 0565 (34) 1235

ホームページ <http://www.ohnishi0024.jp/>



監督
五月女 季孝
Toshitaka Saotome
昭和60年理工学部卒
桐朋学園(東京)出身
野村アセットマネジメント

“渴”
このチームの良いところはどこだろう？足りない部分は何だろう？常にチーム状態に目を配り、冷静に分析したうえで、理想の姿に一歩一歩近づけていきたいと渴望している。



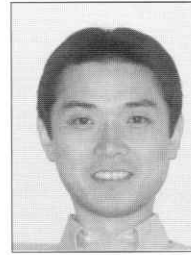
コーチ
奥出 裕充
Hiromitsu Okude
平成5年文学部卒
保谷(東京)出身
共同通信社

“勝”
慶應が勝つために自分ができることは？記者として世界中を飛び回りつつも、コーチとしての自分の役割を追い続ける。その姿勢には本当に頭がさがる。まさにコーチの鑑である。



コーチ
巽 弘樹
Hiroki Tatsumi
平成6年経済学部卒
慶應義塾(神奈川)出身
明治安田生命保険

“活”
自らも現役プレイヤーとして、練習にも積極的に参加するコーチ陣の柱。オンコートでの活発なアドバイスだけではなく、チームの活性化にも気を配れる頼もしいコーチである。



コーチ
清水 聖
Kiyoshi Shimizu
平成8年法学部卒
桐朋学園(東京)出身
三井不動産

“喝”
彼の言葉には不思議な力がある。厳しい台詞の裏には、現役選手を励まし、大切な何かに気づいてほしいというヒントが隠されている。その深い親心が伝わっているだろうか。



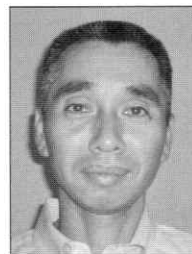
コーチ
辻 典宏
Norihiro Tsuji
平成14年総合政策学部卒
東海(愛知)出身
トヨタ自動車

“克”
ビールの誘惑との戦いに挑み、見事に己に克って10kg以上の減量に成功した。結婚式に合わせたためとの噂もあったが、実は後輩達の練習相手をするのが本当の目的だったか…。



コーチ
武井(永島) 由紀子
Yukiko Takei
平成15年法学部卒
三輪田学園(東京)出身
修業中

“滑”
コーチングスタッフの中で紅一点の永島コーチはチームにとって潤滑油的存在。7月の披露宴で純白のウェディングドレスに包まれた姿はひととき輝いた瞬間だった。



トータル・アドバイザー
加藤 幸司
Kouji Katoh
昭和57年法学部卒
慶應義塾志木(埼玉)出身
慶應義塾大学体育研究所

テクニカル面、メンタル面さらには戦術・戦略面からチーム運営に至るまで、あらゆる分野に亘りチームの統括役として、選手達・監督の相談を引き受けるスーパーバイザー。